

自分の良心を信じて生きる

城北中学校 三年 吉田 愛実

みなさんは良心という言葉を知っていますか？私はこの言葉を二年生の国語の教科書を見て知りました。簡潔に言うと、良心とは「物事の善悪を区別し、正しく行動しようとする心の動き」をいいます。私はこの言葉を知ってから自分の人生がより良くなったと感じます。このことを私の体験談と共にこれから話していこうと思います。

中学二年生、スポーツも勉強も中途半端な私は、国語の授業を迎え教科書を開く。ときどきページの下に載っている言葉の意味を知ることが、私の中での国語の楽しみである。この日はある物語についての授業であり、下に言葉が記されていたので、私は「今回はどのような言葉が載っているのだろう。」とわくわくしながら目を向けた。このとき出会った言葉が「良心」である。とくに変わった読み方や意味でもないが、当時の私はこの言葉と意味が他の言葉とは違う、自分にとって特別な言葉だと感じたのである。そう感じたこの日から、私は「自分の良心を信じて生きていく」と決意した。

私がこの日から変わったと感じることは「意識」である。このことは色々な場面で言えるが、この作文では二つ紹介する。

一つ目は「勉強」だ。やる気が起こらない、めんどくさいな、そんなマイナスな言葉しか言っていなかった私。良心を信じて生きていくにはまずこの私の勉強をまたげる悪心をはらわなければいけない。まず私は、自分の良心がどのようなものかわからなかったので、私の尊敬する人に問いかけるように手を胸において考えた。「やる気が起こるのを待っていても、何も自身にとってプラスにはならない。そんな時間があるのなら、手を動かさな。」と自分でくたさっているように感じた私は、すぐさま行動に移した。こうして数日間、私は、自分の良心を尊敬する人に置きかえて、考えて、行動した。そのうち、私は私自身の良心と出会うことができた。私の良心は、少し言い方がきついが私を正しい道へと導いてくれるものであった。そうして毎日、勉強に苦痛を感じていた私は、自分なりに勉強を楽しくする勉強法をつくり、ゲームをするくらいに勉強に楽しさを感じられるようになった。

二つ目は「バスケ」だ。私がやっているバスケというスポーツは五人制でやるものであり、チームスポーツだ。だから、一人でもサボったら負けると言っても過言ではない。しかし、強いチームと戦うと私は弱気になってしまい、「もう無理だ」と思うときが多々ある。バスケは展開が激しいため、自分の良心と向きあう余裕はない。なので練習から意識を変えていく必要がある。今年は猛暑が続き、余計練習が辛く感じるため、自分に甘くなりやすい時期だが、

自分の良心と会話することで自分に厳しくでき、少し自分への意識が変わったと思えるようになった。

このように良心によって、意識を変えられるようになった私は、何事にも一度立ち止まり、自分の良心と向きあい、それが本当に正しい道なのかを考えられるようになりました。他にも、人との接し方やモノに対する扱い方について深く考えられるようになり、より良い自分になれています。

私はこの世界で良心を持たない人はいないと考えます。犯罪などを犯す人はきっと自分の良心に気づかず、本当の優しさや思いやりを心の底においてきてしまい、悪心だけを見てきてしまった人たちだと私は思います。だからこの世界を良くするためにも、自分自身を良くするためにも、自分の優しさに気づき、良心をもつ本当の自分と向き合っていけば世界が、人生がより良くなっていくのではないのでしょうか。そう思いながら私は今日も自分の良心を信じて生きています。